

パスパ文字チベット語「gal印」紹介

吉池孝一

パスパ文字でチベット語を記した鉄製の印章を一つ紹介する。その形状よりみて近代のものと思われる。この種の小型印の印面は円形もしくは方形のものがほとんどであり、本印章のような鞍形のもの希少である。それにもまして、パスパ文字の綴り方が特殊であり、説明を要すると考え紹介の文を書くこととした。印影を一見するかぎり、一字目は𑄎 g、二字目は𑄎 (元代パスパ文字の𑄎に相当) i、三字目は𑄎 l で、合わせて gĩ(a)l (パスパ文字では母音の a は表記されない。子音やĩや ũ の後に母音 i,u,e,o がないばあい、そこに母音 a があるとみなして a を補写する) のように読みたくなる。

しかしながら、これは gĩ(a)l ではない。𑄎に類似した第二字目と目される部分は、実は独立した文字ではなく、一字目の g の右側縦線を引き伸ばし折り畳んだものに過ぎない。それは、末尾の l との間に短い縦の連結線「丨」が使われていることから分かる。それでは、なぜ g という文字の一部を引き伸ばし折り畳んだのか。𑄎 g と𑄎 l を直接つなぎ g(a)l を表記することは可能であるし、それが元代のパスパ文字の綴りから類推される方法である。思うに、後者によると、g の右側縦線と l の右側縦線が一本の線としてつながり、その結果、末尾が l の字であると確認することに多少の困難が生ずる。場合によっては、l の部分は篆書体風に角ばらせた母音の i と誤認され、全体として gi と読まれる恐れもある。このような字形の混同を避けるという事情があったのかもしれない。もっとも、これは机上の憶測であり、本印章の特殊な綴りが、字形の区別に係わるものであるのか、それとも印面のバランスを整えるという美的な感覚に係わるものであるのか、複数のパスパ文字チベット語資料に見られる綴り字の方法を帰納した上でなければ確かなことは言えない。

それで、結論として、この印面にはチベット語で g(a)l と刻されていると読む。gal の辞書における意味は「重要」ということであるから、当たらずとも、それから遠くない意味で使用されたものであろう。この種の印章を用いた実例があれば、「gal印」の用法および正確な意味がわかるかもしれないが、寡聞にして知らない。専門の教を請いたくおもう。なお、近代の文物に見られるパスパ文字チベット語における綴り字の方法は、元代のものと切り離して考えなければならないかもしれず、その綴り字の方法に、元代のものと異なる一定の型がみられるかどうか検討する必要があるようだ。本印章のような例をみるとその感を深くする。最後に、今回紹介した「gal印」は現在、古代文字資料館(愛知県立大学 E511 研究室)で管理していることを添え述べておく。



